

**令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金研究**

**障害者の高齢化による状態像の変化に係る  
アセスメントと支援方法に関するマニュアルの  
作成のための研究**

**令和 2 年度実施調査結果（速報）**

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園

# 障害者の高齢化による状態像の変化に係るアセスメントと支援方法に関するマニュアルの作成のための研究 (2年計画1年目)

## 《目的》

自身で心身の変化を周囲に上手に伝えることができない障害者等への適切なアセスメント方法と、そのアセスメント結果を基に適切な支援を提供するためのプログラムの実用化、ならびにプログラムの有効性の検証、研修カリキュラムの開発等を行うことを目的とする。

## 《方法》

●本研究は「認知症WG」「身体機能WG」「マップ作成WG」を中心に研究内容の検討や実態把握のための調査等を行った。

調査①：先行研究調査（令和2年7月～）

調査内容：データベースによる文献検索、検討委員からの情報収集により、本研究の参考となる先行研究を収集した。

調査②：事業所を対象としたヒアリング調査（検討委員を対象）（令和2年7月～令和2年11月）

調査内容：支援の状況や利用者のニーズ、制度の効果や課題等について把握した。

調査③：先行研究のDEMBASEの記録用紙を参考にした高齢障害者の背景要因を探るためのチェックリスト作成についてのアンケート調査（認知症WG委員を対象）

調査内容：高齢障害者の支援に関して①必要ない項目、②新たに加えたい項目、③文章を書き替えたい項目、を確認した。

調査④：高齢障害者に必要な支援内容や変化への気づき等を把握するためのアンケート調査（マップ作成WG委員を対象）

調査内容：高齢利用者の①ICF項目ごとの状態像の変化、②支援が必要になった年齢、③変化に気づくために必要な視点、を把握した。

## 《結果》

### ■調査①

- ①J-stageの検索結果 「障害者」×「認知症」1,992件、「障害者」×「機能低下」2,416件、「知的障害」×「高齢」1,810件
- ②事例報告が主で、状態像の変化への気づきや、普及に結びつけやすいツールの活用に関するものは見られなかった。
- ③海外の研究で、NPI-NHIに「自傷行為」および「リスク行動」の2項目を追加した知的障害者向けの「NPI-ID」がスウェーデンの研究グループによって開発されたことを把握した。

※NPI-IDを使用するにあたり、NPIの作成者（J. Cummings）の著作権等を管理するMapi社と使用許諾契約を締結し、Mapi社の承諾の下でNPI-IDの研究グループのLars-Olov Lundqvist(Orebro University)より使用許可を得た。

### ■調査②

- ①身体面や認知心理症状等の変化を見過ごすことで、認知症の発症や日常生活の機能低下が進行する事例が多い
- ②状態像の変化に気づく意義を職員間で共有できていないこと等の課題がある
- ③祐川委員の所属する侑愛会の取り組みを好事例として把握した

### ■調査③

結果より、チェックリストの目的が、①大項目（少ない項目）で支援現場における議論の場に挙げる、②支援の妨げとならず継続してプログラムを実施してもらうことであることを確認した。

### ■調査④

- ①加齢による健康状態や身体機能低下だけではなく、住まいや家族関係の変化などの環境因子により、活動や参加が制限される事例が多く見られた。
- ②知的障害者は40代から身体機能低下の事例が見られ、特にダウン症は早期に支援が必要になった事例が確認できた。

## 《考察》

- 高齢知的障害者の対応は障害者支援施設の方が事例が多く、通所の事業所やGHでは今後増加が見込まれるため、適切な支援のためのツールが重要と考えられた。
- 高齢知的障害者は40～50代での身体機能の低下や認知症発症の事例があり、状態像の変化に早期に気づき、高齢期前から必要な支援を整理することが重要である。

## 《次年度の取り組み》

- ①高齢期の障害者（特に知的・発達障害者）に関する状態像の変化に気づき支援を行うためのプログラムの開発と支援現場での試行、分析、②高齢期以前に対応すべきことから看取りまでの長期的な支援のマップの作成、③普及のための研修の企画や動画教材の作成を行う。

資料1 DEMBASEについて

**DEMBASE**  
(Dementia Behavior Analytics & Support Enhancement)

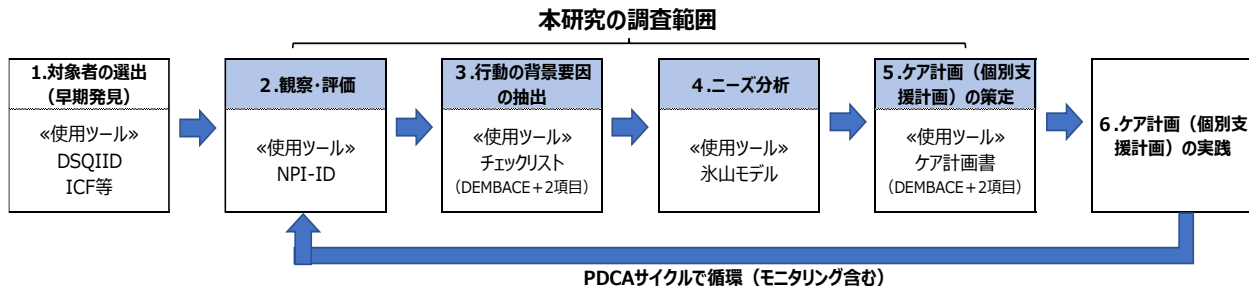
東京都が公益財団法人東京都医学総合研究所と協働して、スウェーデンのケアプログラムをもとに開発した日本版BPSDケアプログラム。

介護保険事業所や地域において、認知症ケアの質の向上のための取組を推進する人材を養成するとともに、BPSDの症状を「見える化」するオンラインシステムを活用し、ケアに関わる担当者の情報共有や一貫したケアの提供をサポートするプログラム。

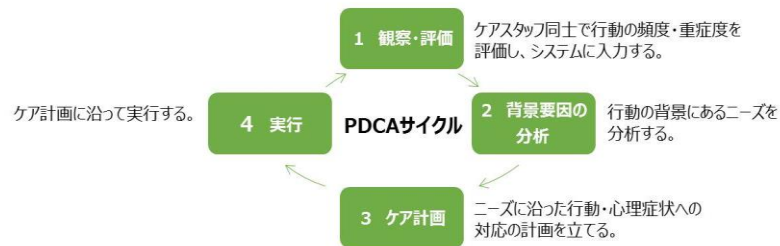
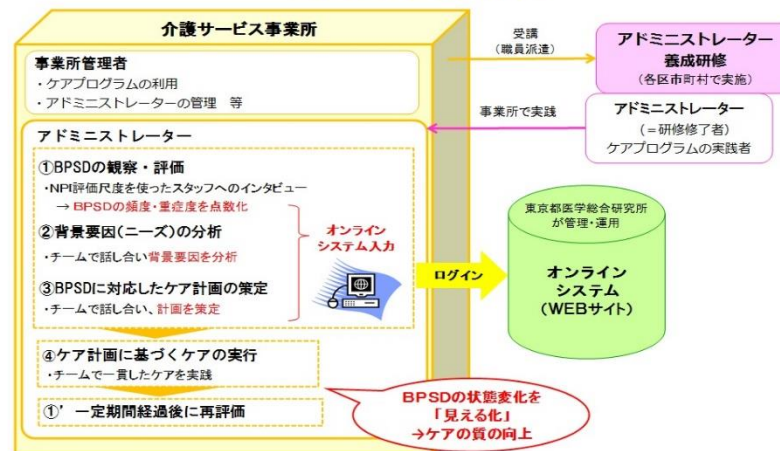
**NPI**  
(Neuropsychiatric Inventory)

BPSDの評価において国際的に広く使われており、妄想、幻覚、興奮、うつ、不安、多幸、無関心、脱抑制、易怒性、異常行動、夜間行動、食行動の項目について、それぞれ頻度、重症度を評価する。点数が高いほど頻度、重症度が大きいことを示す。

資料2 プログラムの進め方案 (PDCAサイクル)



ケアプログラム利用の流れ



資料3 マップ案

①ICF(健康状態、心身機能・構造)

②ICF(活動、参加)

③ICF(環境因子)

